

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18618

研究課題名（和文）教育と福祉専門職間の協同関係構築と新しい専門性のための研修体制に関する実践的研究

研究課題名（英文）Practical research on building collaborative relationships between education and welfare professionals and training systems for new specialties

研究代表者

高橋 満（TAKAHASHI, MITSURU）

東北大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：70171527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：地域のケイパビリティを高める上で関連専門職である社会教育職、社会福祉職、医療職との連携が欠かせない。しかし、同時に、専門職＝プロフェッションとは関連領域との違いを強調する中で成立してきた。したがって、必要性は認識されながらも、その連携をどうつくるのか。研修システムをつくるのが課題とされてきた。

本研究は、その課題解明を明らかにするために、スコットランドの教育職、福祉職との連携政策及び研修制度から学ぶとともに、日本における実現の方略を明らかにするための実証的調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して上記課題に関する研究を進めてきた。その成果は、高橋満「高齢者の学習参加の意義 ケイパビリティ・アプローチ適用の可能性」等として公表してきた。A.センは国際的政策形成に大きな影響を与えており、初めての本格的な教育の視点からの理論的検討であり、しかも、その中で専門職者の連携等の課題について論じており、学会においても大きな影響を与える成果として評価を得ている。

研究成果の概要（英文）：The Cooperation with social education, social welfare, and medical professions, which are related professionals, is essential to enhance regional capabilities. However, at the same time, it has been established while emphasizing the difference between the profession and related fields. Therefore, how to create such cooperation while recognizing the necessity. The challenge has been to create a training system. In order to clarify this issue, this research learned from Scotland's educational and welfare cooperation policies and training systems, and conducted an empirical survey to clarify the strategies for realization in Japan.

研究分野：社会教育学

キーワード：地域づくり プロフェッション 社会教育職 社会福祉職 連携・協同

1. 研究開始当初の背景

地域づくりは内外の政府による政策の重要な柱の一つである。これまでの研究としては、ユネスコや OECD など国際機関の政策研究や、各国政府による施策の実施と評価などが重ねられてきた。

こうした状況は日本でも同様である。実践や施策は重ねられているが、これを方法的に支える理論的枠組みの解明は置き去りにされてきた。つまり、実践はあるが、理論が欠けているのである。本研究では、国連や OECD などの政策評価の分析枠組みとして注目されている A. Sen のケイパビリティ論を再検討するとともに、具体的な地域における教育実践の評価枠組みとしてどのように活かすことができるのか、その解明が求められている。

2. 研究の目的

「地域づくり」は、国際的にも、そして国内的にも重要な政策的課題(「地域創生」政策)である。それは社会教育の政策的課題にもなっている。しかし、「地域づくり」とは何か。「地域づくり」に社会教育はどのように寄与することができるのか。社会教育的アプローチの固有の課題と方法とはどのようなものなのか。こうした諸点は詰められた議論が行われていない。

本研究では、1「地域づくりと社会教育」の批判的・歴史的検討を踏まえ、2「地域づくり」の焦点的理論として、コミュニティ・エンパワメントの理論と「地域づくりの空間論」の検討の必要性を提起する。さらに、3『地域づくり』における、他の関連職種との連携のあり方を踏まえ、「地域づくり」の社会教育的アプローチの具体的な方法論を明らかにすることに課題がある。

3. 研究の方法

今年度の研究では、3つの柱を立てて共同研究を進める。課題 A「歴史・理論研究」では、イギリス・日本の先行研究、CCD 研究の検討を進める。課題 B「健康研究」では、地域で孤立しがちな高齢者の調査を実施し、この分析を住民参加ですすめながら支援計画を策定する。課題 C「高齢者のケイパビリティ向上」では、A. Sen のケイパビリティ論を再検討するとともに、これを測定・評価する実証的研究方法の開発に努める。とくに、学習のプロセスを解明するため、脳科学の研究手法を取り入れつつ分析を試みる。

内外の学会(日本社会教育学会)で成果発表する。

4. 研究成果

研究成果としては、以下のものが挙げられる。

(1) 研究の主な成果

この研究を通して、業績記載の通りの国際学会等での発表、論文掲載に結びついた。とくに、本研究の実証部分では、絵画鑑賞における脳活動の変化を脳科学

の成果と技法を生かして行ったのは、社会科学研究と脳科学の統合を試みたものとして先駆的な取り組みとなった。この成果は、専門職者の協同・連携構築にも有用である。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

記載の通り、国際学会の数本の発表を行ってきた。とくに、2023年5月のスペイン、イタリアでの学会での発表は多くの研究者の関心を呼び、ジンバブエの研究者からは共同研究をすすめたい旨の連絡を受けている。また、CIVAEでの発表した論文は、組織委員会から編集する本の一つの章として開催したい旨の要請を受けている。このようなインパクトを生み出すことができた。

(3) 今後の展望

今後の課題としては、この研究の精緻化をすすめる必要がある。とくに、高齢者の学習としての美術館教育の意義については、より多くの被験者調査と重層的な分析が必要である。被験者も子どもにまで広げて事例として調査・分析する必要がある。これも今後の課題である。この分析の上に社会教育関係職員(学芸員を含む)と他の専門職との連携・協同の構築方法をより明らかにすることができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 高橋満	4. 巻 5
2. 論文標題 高齢者の社会教育への参加～「ケイパビリティ・アプローチ」の可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宮城学習センター『研究集録』	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muhammad Affandi, Mustafa Kamio, Ace Suryadi, Mitsuru Takahashi,	4. 巻 548
2. 論文標題 The Effect of Project Based Learning Models on Improving Student Learning Results on Entrepreneurship Education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Advances in Social Science, Education and Humanities Research,	6. 最初と最後の頁 122-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKAHASHI Mitsuru	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 Exploring the Role of Art Museum for the Recovery from Disaster: The Potential of Museum Experience	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Multidisciplinary Scientific Conference on Social Science and Arts SGEM	6. 最初と最後の頁 255-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuru Takahashi, Yanti Shantini, Mitsuru Takahashi Takiko Makiishi	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 Global Study of Student Engagement: Collaboration Research of Tohoku University, Universitas Pendidikan Indonesia and Shirayuri Women's College.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北大学大学院教育学研究科年報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKAHASHI Mitsuru	4. 巻 1
2. 論文標題 Educational Significance of Art Activities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Conference of State University of Samara	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mitsuru TAKAHASHI, Takiko Makiishi	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 Earthquake Disaster and the Potential of Adult Art Education	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SGEM	6. 最初と最後の頁 133-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5593/sgemsocialF2018/6.3/S12.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Mitsuru	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 Exploring the Role of Art Museum for the Recovery from Disaster: The Potential of Museum Experience	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SGEM	6. 最初と最後の頁 255-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5593/sgemsocialF2018/6.3/S15.031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大高研道	4. 巻 305
2. 論文標題 「変えることのできないもの」と「変えることのできるもの」：新たな協同労働実践の幕開けに寄せて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 協同の発見	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡幸江	4. 巻 866
2. 論文標題 「人の一生を育てる伝承」にみる、応答の知 (特集 「人を育てる地域」をつくる)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 雑誌教育	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Mitsuru Takahashi
2. 発表標題 The role of community education towards gender equality
3. 学会等名 Forum of Community Education, UPI Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsuru Takahashi
2. 発表標題 The Potential of non-formal education in new normal society
3. 学会等名 Non Formal Education International forum 2021, University of Negeri Padang, Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsuru Takahashi
2. 発表標題 Participation in social education and capability approach
3. 学会等名 1st international conference on continuing education and Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsuru Takahashi
2. 発表標題 The significance of community based art education,
3. 学会等名 International conference in Samara, Russia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TAKAHASHI MITSURU
2. 発表標題 Art activities in early childhood education
3. 学会等名 Second international conference on art education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋満
2. 発表標題 雇用問題を乗り越えるためのリカレント教育
3. 学会等名 日本学術会議 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋満
2. 発表標題 リカレント教育：新しい生き方をつくる
3. 学会等名 東北大学・RIETI (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TAKAHASHI MITSURU
2. 発表標題 Social Participation in Community Education as Active Aging
3. 学会等名 The 4th international conference on educational scienc (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TAKAHASHI Mitsuru
2. 発表標題 Reexamining Deliberative Democracy: Community, Adult Education and Democracy
3. 学会等名 SGEM (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋満
2. 発表標題 高齢者の社会参加
3. 学会等名 日本社会教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKAHASHI Mitsuru
2. 発表標題 Educational Significance of Art Activities
3. 学会等名 1st conference on art education in Samara,Russia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大高 研道 (Ohtaka Kundo) (00364323)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	岡 幸江 (Oka Yukie) (50294856)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	槇石 多希子 (Makiishi Takiko) (80209402)	仙台白百合女子大学・人間学部・名誉教授 (31309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------